

# 一般質問



## 保育園待機児童の解消について

### いかにして農家の収入を上げるか

青柳宗五郎



元気な子供たち(角館保育園)待機児童なくせ

保育園の待機児童を解消できないか

**質問** 入学前の三歳児未満、四歳児以上の保育園の児童数は何名か、また待機児童は何名か。

**市長** ○歳は三十六名、一歳〜三歳までは三百九十四名、四歳以上は三百二十八名、合計七百五十九名である。

待機児童は○歳〜二歳までで十四名である。

**質問** 少子高齢化対策が声高に叫ばれているが、子供をたくさん産んでも暮らして

していけない。共稼ぎの方たちが預けるところがきちんとしていない等の問題がある。十四名の待機児童を考えるなら、かゆいところに手がとどくように、お産の入院時から、産休明けにはどこの保育園を望むのかぐらい聞いて対応する気持ちで望むべきでないか。

**市長** ○歳〜三歳までの対応施設が少ない。西保育園、中川・白岩はそうなっていない。老朽化もってきているので、その点も踏まえて検討し

ていきたい。統合小学校の通学路について保護者と相談したか。

**市長** 通学路については、PTAから色々な要望が出されている。西長野小学校はスクールバス配置、東小学校は安全対策、遠距離対策である。今後も保護者との説明会を催したいと考えている。

**農業収入を上げるにはアンテナショップは**

**質問** 農業の土台は米である。認定農家、四ヘクタールとしてどれだけの収入があるか確認されたことがあるのか。三十三%の減反で、農機具の支払い、農薬・肥料等の支払いがあり、成り立たない。どのように考えているのか。減反が始まってから三十年になるが当局はどのような対応をしてきたのか。

**市長** 国の制度はめまぐるしく変化しており、整合性がないこと等について農家の立場で県、国に話をしてきているし、農業者がどう展開できるかについて取り組みをしている。

**質問** 減反を利用していかにか収入をあげるかが課題。第三次加工の試作品に金

を出せないのか。例えば柿漬、いぶり漬、なす漬等の真空パック利用による商品実用化に。

**市長** 農業生産物販売支援は当然していかなければならぬ。しかし、押し付けられた形ではなく、これをしてみたいと自主的に出てきて、未解決の部分の行政ができれば理想である。

**質問** 農家は収入をあげなければならぬ。しかし、当仙北市から持っていくて売れる物があるだろうか。販売場所として以前提案のあった荒川区のアンテナショップはどうなっているのか。

**市長** 検討中である。荒川区の直接販売の形態だけでなく、板橋区にも別の形がある。人が行かなくても委託料を払い販売してもらう方法もある。いろいろな模索の段階である。

すべての計画が出来次第住民の皆様にお知らせし、相談し来年度からスタートしたい。

**質問** 当地域が売れるものは、米、ほうれんそうぐらいである。減反を利用した政策はないか。

**市長** 農家の人達と一緒に考えていきたい。